

ドリル3: Tom, could you attach a summary to your report?

見本例1

Tom, could you attach a summary to your report?

I know it would help the Japanese associates a lot. You know, reading documents in English takes us a long time.

トムさん、報告書に要約をつけてもらえませんか。日本人社員が助かることだけは確かです。文書を読むのは、英語だと、僕たちは結構時間がかかりますから。

I know ... ~ということは間違いない

やまと言葉 直訳的には「~ということを知っている」ということですが、日常的には、実際に事実として知っているということを伝える感覚よりも、実際の経験や知識をベースに「~ってことは間違いないよ」「絶対~だよ」という感覚です。

It would help ~. ~にプラスになる、~が助かる

大和言葉 to help は直訳的には「助ける」ですが、コアの意味は「(何かの)プラスになる」という感覚です。人が主語であれば「助ける」がピッタリですが、ものが主語になると、まさにこのコアの意味合いをつかめばしっくりきます。

ロジック 「なにかが、何かのプラスになる・役立つ」という表現ですから、ここでのように、自分の主張していることの利点を示して説得するとき大活躍する表現です。

見本例2

Tom, could you attach a summary to your report?

Japanese associates would really appreciate it, because it's very hard for us to read long reports in English.

トムさん、報告書に要約をつけてもらえませんか。多くの日本人社員が感謝しますよ。というのも、私たちには結構大変なんですよ、英語で長い報告書読むのって。

~ would appreciate it. 感謝しますよ。助かるよ。

慣用表現 **文法** 仮定法で would になっている点に注意。まだ相手は「やってくれる」とは言っていない。つまり、この段階では「やってくれたら」という仮定のもとに、「そうしてくれると大変助かる」と言っているのがこの表現です。相手がまだ「やる」と言っていない段階で、仮定法を使わずに敢えて I appreciate it. という場合は、相手が頼まれていることをするのが、ある程度「当然である場合(例えば、上司の人がごく当然のことを指示として言っている時)」、あるいは「非常に丁寧に「命令」している時」になります。そういう場合を除けば、基本的には以下の時制です。

YES と言ってくれる前は、 I would appreciate it.

YES と言ってくれた後は、 I appreciate it.

行動をしてもらった後は、 I appreciate it. または I appreciated it.